資料２３－①

平成 25 年 9 月 17 日

沖縄県がん診療連携協議会

相談支援部会

研修報告書

国立がん研究センターがん対策情報センターのがん相談支援センター相談員研修計画に基づいた、下記の研修に参加したので、その内容と成果を報告します。

記

1. 研修名

平成２５年度　相談支援センター相談員指導者　フォローアップ研修　～実践報告～

主催：独立行政法人国立がん研究センターがん対策情報センター

2. 受講期間

2013 年 09 月 06 日（金）9：30～17：00

3. 受講場所

国立がん研究センター築地キャンパス

4. 参加者

樋口美智子（那覇市立病院医療支援部総合相談支援センターMSW・相談支援部会長）

石郷岡美穂（琉球大学医学部附属病院医療福祉支援センターMSW・相談支援部会副会長）

大久保礼子（琉球大学医学部附属病院がんセンターMSW・相談支援部会委員）

5. 研修内容

１）研修の目的

各都道府県において、相談員のための学習の機会をつくることができるようになることを目標とする。

２）研修の構成（受講コース）

指導者研修修了以降、「相談員のための学習の機会をつくる」という観点から、各都道府県で検討・実践してきた取り組みについてプレゼンテーションを行う。

３）プログラム（タイムスケジュール、カリキュラム）

プログラム		
9：00～9：30	受付	
午前の部	オリエンテーション	
	プレゼンテーション	「相談員のための学習の機会をつくる」という観点から、各都道府県で検討・実践してきた取り組みに関するプレゼンテーション

		を行う
昼休み		
午後の部	グループワーク	相談員のための学習の機会をつくり、継続・発展させていくためにできること等について検討する
	振り返り	
16：30～17：00	挨拶・修了証書交付	アンケート記入

6. 研修の成果／感想

１）沖縄県では平成 20 年度から、相談支援部会主催で「がん相談支援員実務者研修会」を開催している。運営は、県立中部病院、那覇市立病院、琉球大学医学部附属病院の３拠点病院で持ち回りとし、年３～４回実施してきた。講義形式だけでなく、グループワークを取り入れるなど、改善が必要である。

２）今後、拠点病院には相談員に対する継続的な研修の実施が求められる。県内で地域のがん相談支援機能強化に向け継続的に研修を実施していくにあたり、運営を担うファシリテーターの育成が急がれる。

３）拠点病院制度のグループ指定などが始まると、拠点病院以外の相談員も対象になり、研修会の規模や内容の拡充が必要となるため、従来のような拠点病院のみでの運営が難しくなる。相談員教育の位置づけや財源に関すること、修了証書の発行といった相談員への動機付けへの工夫も課題である。医師対象の緩和ケア研修会運営を参考に、沖縄県にもバックアップをいただきながら検討していきたい。

7. 添付資料

当日配布資料

以　上

＜　参考　＞

○関連する研修

１．相談支援センター相談員指導者研修（主催：独立行政法人国立がん研究センター）

同一都道府県内のがん診療連携拠点病院に所属する原則 3 人 1 組のチームを対象とする。チームメンバーは異なる施設に所属する者で構成されることが望ましく、また以下の要件全てを満たしている必要がある。

・所属施設が厚生労働省の指定するがん診療連携拠点病院である（うち 1 名は都道府県がん診療連携拠点病院に所属する者であることが望ましい）
・がん相談支援業務に携わる実務者である
・医療・福祉関係の資格を有する者、あるいはそれに準ずる者である
・相談支援センター相談員基礎研修（1）（2）（3）を修了している
・都道府県がん診療連携協議会の下に組織される相談支援に関する部会の部会長（部会がない場合は、都道府県のがん対策主管課の長）の推薦を受けている
・病院長の推薦を受けている
・相談員のための学習の機会をつくることへの意欲がある

H25年度　相談員指導者フォローアップ研修会

今後、がん診療連携拠点病院に求められる機能について

新たながん診療提供体制について（報告書）

平成25年9月5日

厚生労働省健康局がん対策・健康増進課より

http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/0000021958.html

がん情報サービス ganjoho.jp

新たながん診療提供体制の概要（案）

【課題と対応案】

①拠点病院間の格差の存在

→人材配置要件、診療実績要件等の強化、相談支援体制の充実によるさらなる質の向上及び一定の集約化

②拠点病院未設置の空白の2次医療圏の存在

→緩和ケア、相談支援及び地域連携等の基本的がん診療を確保した「地域がん診療病院（仮称）」の新設。

③特定のがん種に特化した診療を行う病院の存在

→特定のがん種に対し高い診療実績を持ち、都道府県内で拠点的役割を果たす「特定領域がん診療病院（仮称）」の新設。

④がん診療提供体制に関するPDCA体制の構築

→国立がん研究センター、都道府県拠点病院による各拠点病院への実地調査等、

→各拠点病院での院内のPDCAサイクルの確保（患者QOL把握・評価等による組織的改善と実施状況の報告・広報体制の整備等）



第4回がん診療提供体制のあり方に関する検討会資料　資料1 http://www.mhlw.go.jp/file.jsp?id=148628&name=0000014349.pdf

3．新たながん診療提供体制の構築に当たっての留意事項

（相談支援について）

○ 働き盛り世代のがん患者及びその家族にとって、就労に関するニーズは高い。就労に関する相談対応には、専門的かつ広範な知識・経験が要求されることから、産業保健等の分野との効果的な連携を推進すべきである。

○ がん患者及びその家族にとって、主治医等の勧めがない中での相談支援センターの活用には心理的抵抗感があるとの声もあり、主治医等から相談支援機能に関する周知が図られることが望ましい。

○ がん患者及びその家族の相談ニーズが多様化・高度化する中、地域の資源を効果的に活用する観点から、各地域の実情に即して、都道府県拠点病院及び拠点病院等の役割分担により、一層の連携を図る必要がある。

○ 相談支援体制のさらなる向上のため、がん患者及びその家族と医療従事者との架け橋となる人材の育成を図ることが重要である。

新たながん診療提供体制について（報告書）
平成25年9月5日http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/0000021958.html

がん情報サービス ganjoho.jp

3．情報の収集提供体制　相談支援センター

- 相談支援機能を果たす組織の名称が施設毎に異なっており、患者にとってわかりにくいとの指摘があることから、病院固有の名称との併記を認めた上で、必ず「がん相談支援センター」との表記を求めるべき
- 相談支援機能のさらなる充実のため、相談支援センターの相談員のうち、少なくとも2人が国立がん研究センターの「相談支援センター相談員研修・基礎研修」（1）～（3）を修了していることを求めるべき
- 相談支援の内容について、患者・家族のニーズの多様化・高度化をふまえ、その専門性を高める観点から、都道府県がん診療連携協議会等の場での協議を行い、都道府県がん診療連携拠点病院、地域がん診療連携拠点病院、地域がん診療病院のそれぞれが担うべき内容を役割分担すべき
- 拠点病院のがん相談支援センターの業務として、現行の業務項目である、「がん患者の療養上の相談」の内容の具体例として、就労に関する相談を求め、さらに以下の内容を加えるべき
  - ① 患者活動の支援（患者会への支援、患者サロン、ピアサポートなど）
  - ② 相談支援センターの広報・周知活動/地域連携の強化
  - ③ 相談員教育と支援サービス向上に向けた取り組み

がん診療提供体制のあり方に関するワーキンググループ報告書(平成25年8月1日)より

がん情報サービス ganjoho.jp

(3)その他

- 拠点病院で行っている診療内容を一般にわかりやすく示すため、自施設で提供するがん種別の医療の情報を病院ホームページ等でわかりやすく公表することを求めるべき
- 地域がん診療病院とグループ指定を受ける拠点病院に対しては、連携先の地域がん診療病院名やその連携内容、連携実績等について病院ホームページ、パンフレット等でわかりやすく公表することを求めるべき
- 拠点病院とそれ以外の名称が類似する病院(例えば自治体指定のがん診療施設等)との区別を容易にするため、例えば看板の形状や同一のマークの掲示等を求めるべき



Ⅴ. 都道府県がん診療連携拠点病院(都道府県拠点病院)の要件について

1. 地域の診療機能強化に向けた要件
2. 都道府県協議会の機能強化に向けた要件
3. 地域の相談支援機能強化に向けた要件
4. 都道府県拠点病院の診療機能強化に向けた要件
5. 院内がん登録の質的向上に向けた要件

3. 地域の相談支援機能強化に向けた要件

- 現行の要件においては、都道府県拠点病院の役割として、医師、薬剤師、看護師等を対象とした研修の実施が明記されているが、地域の相談支援機能の強化のため、都道府県拠点病院の役割として、地域拠点病院等の相談員に対する継続的かつ系統的な研修の実施も明記すべき
- 上記、役割を果たすため、原則、都道府県拠点病院の相談員のうち、少なくとも1人は国立がん研究センターの指導者研修を修了することを求めるべき
- また、相談支援に対するニーズは多様化・専門化しており、都道府県拠点病院は、就労や臨床試験に関する相談支援機能を有するとともに、希少がんに関しては適切な相談の場の紹介を含め相談支援機能を有することが望ましい

Ⅵ. PDCA サイクルの確保(実地調査の実施)について

- 国レベル
- 都道府県レベル
- 拠点病院レベル
  - 自施設の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、患者 QOL について把握・評価し、課題認識を院内の関係者で共有した上で、組織的な改善策を講じるべき旨を要件として明示すべきと考えられた。また、これらの実施状況につき都道府県拠点病院からの求めに応じ情報提供を行うとともに、わかりやすい形で広報すべき旨も明示すべきと考えられた。

平成25年度

相談支援センター相談員
指導者フォローアップ研修

●主催　独立行政法人　国立がん研究センター　がん対策情報センター

目次

1. 長野県……1
2. 千葉県…… 5
3. 東京都…… 9
4. 神奈川県 ……13
5. 岐阜県…… 17
6. 滋賀県…… 20
7. 京都府…… 24
8. 奈良県…… 28
9. 大阪府…… 34
10. 兵庫県…… 39
11. 広島県…… 42
12. 徳島県…… 46
13. 福岡県…… 49
14. 佐賀県…… 56
15. 長崎県…… 65
16. 熊本県…… 68
17. 沖縄県…… 82

長野県

1

[実践報告]

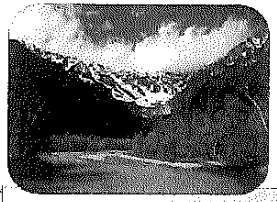
長野県
がん相談員スキルアップ研修2012
開催報告

長野市民病院　横川史穂子
諏訪赤十字病院　橋爪睦
信州大学医学部附属病院　仁科直美



2

長野県の現状



長野県は縦に長く、公共交通機関のアクセスが悪い

それぞれの地域が山などで隔てられている

つまり・・・
山国で行き来がしにくい県

がん診療連携拠点病院は
６医療圏８病院
（全県10医療圏）

県内拠点病院 情報連携部会は、年１回程度
がん相談実務者が出席することは少ない

県内のがん相談員はお互いに顔の見える関係ではなく、独自で実務をしている

どんな問題を抱え、ニーズを持っているか不明瞭

3

そこで、相談員対象のアンケートを行いました

- 目的：1）県内のがん相談員が、日々の相談場面において、どのような課題・問題があるのか、現状を把握し評価する
  2）今後の相談員養成、及び教育研修につなげる
- 対象者：長野県内のがん診療連携拠点病院、及び県委託の相談支援センター設置病院で、がん相談に従事する者

アンケートからみえたもの

回答者の基礎研修受講背景にばらつきがあるため、基礎研修3修了者に焦点をあて評価した結果、「できない」が多い回答は以下の3点であった。

2	疾患の病期や状態、治療状況に応じた対応ができる
15	必要によって中長期的に理解してもらいたいことは何かを伝え情報提供できる
17	クライエントがすぐ行う必要があることを共有し面談を終了している

4

研修概要と開催目的

アンケート結果を踏まえて、県内がん相談員の教育研修を開催することとした。

1. がん相談員が日々行っている相談支援 業務のスキルアップを目的に，基礎研修３受講後のフォローアップ，復習・強化研修の位置付けとする。
2. 相談場面を想定した事例を通して，中長期的にみた相談支援のプロセスを展開できる。

長野県がん相談員スキルアップ研修2012
2012年11月10日(土)9:00~16:00
信州大学医学部附属病院 研修室

5

学習目標

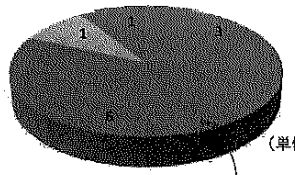
1. 中長期的な視点から相談支援のプロセスを学ぶ
   1）相談事例に対する課題問題の明確化と整理の共有ができる
   2）相談事例に対する理解の促進・情報提供や支援の整理と共有ができる
2. 多職種との連携を含めた継続的な支援について学ぶ
   1）継続的なサポートのあり方について，院内外のリソースや関係機関との連携を含めた，今後の支援の方向性の検討と共有ができる

タイムスケジュール

No.	時間	プログラム	形式	使用スライド・教材
1	09:00～09:20	挨拶，オリエンテーション		
2	09:20～09:40	アイスブレーキング	GW	自己紹介・他己紹介
3	09:40～10:00	他職種との連携の課題	GW	スライド
4	10:00～10:20	相談支援のプロセス	講義	スライド 講義資料
		休憩（１０分間）		
5	10:30～12:30	胃がん患者への相談支援	GW	ＤＶＤ スライド
	12:30～13:30	昼休み（６０分間）		
6	13:30～14:50	胃がん患者への相談支援	GW	スライド
		休憩（１０分間）		
7	15:00～15:30	全体共有・発表		スライド
8	15:30～16:00	まとめ・クローズセッション	GW	
9	16:00～16:15	挨拶・修了書		アンケート記入

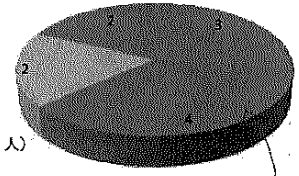
参加者の背景

参加職種



■看護師 ■MSW
■臨床心理士 ■その他（医師）

がん相談支援年数

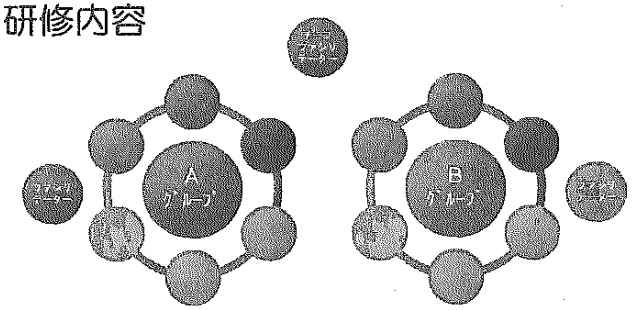


（単位：人）

■1年未満 ■1～3年
■3～5年 ■5～10年

8

研修内容

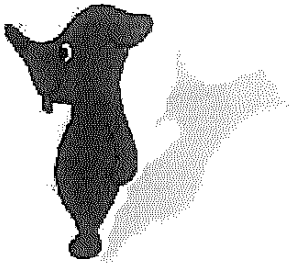


相談支援センター相談員指導者研修修了者で企画・担当
- チーフファシリテーター１名･･･進行・講義
- グループファシリテーター２名･･･A，B各グループ

千葉県

千葉県
がん相談従事者向け研修計画
『相談員連絡会』開催報告

千葉県がんセンター
中村晃子
国立がん研究センター東病院
坂本はと恵
東京歯科大学市川総合病院
安原千晶



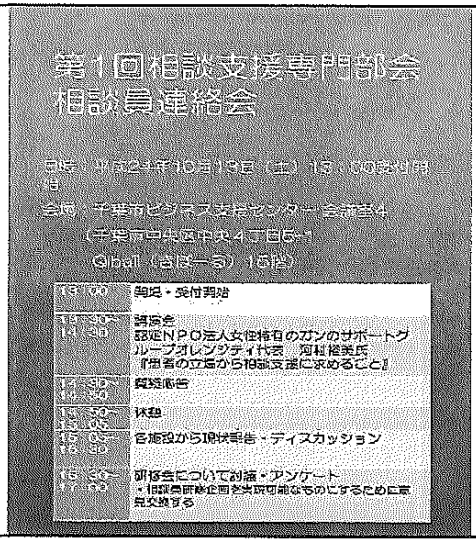
『千葉県相談支援専門部会　相談員連絡会』開催目的

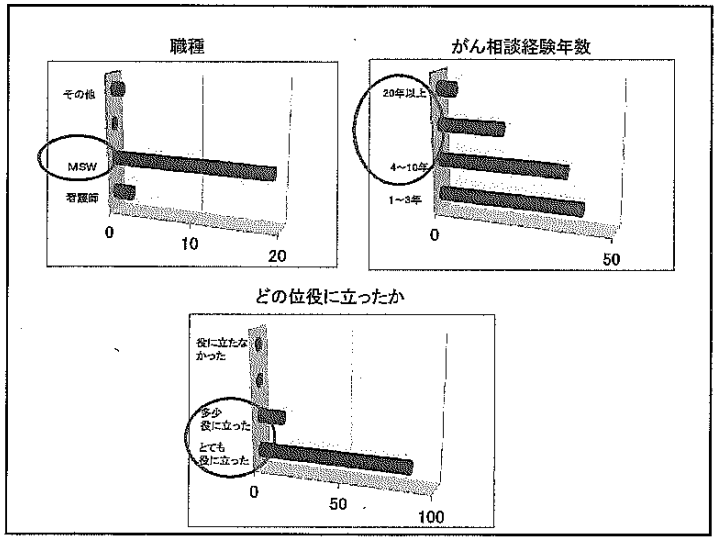
①県内がん診療連携拠点病院間の相談員同士の連携を図る
②県内のがん相談の現状と問題を把握し、必要な研修会などを企画する
③現場発想からよりよい相談支援体制を構築する

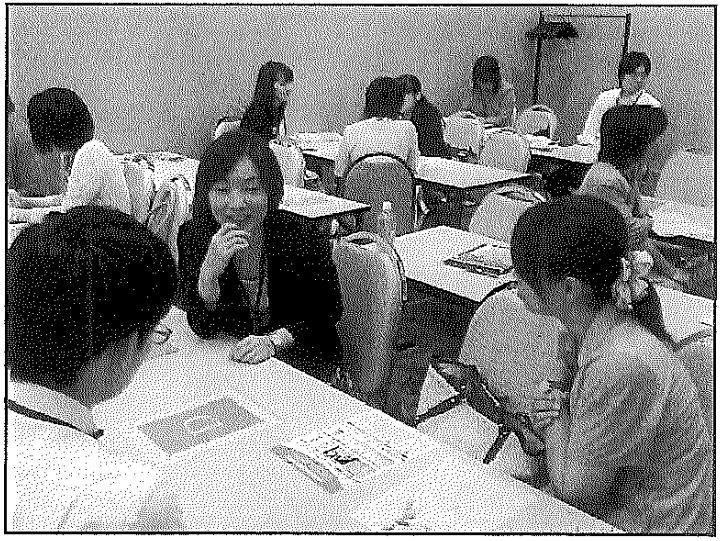
『千葉県相談支援専門部会　相談員連絡会』研修概要

開催年月日：①平成24年10月13日
②平成25年2月2日
③平成25年6月29日

対象者：がん診療連携拠点病院・協力病院のがん相談員
参加人数：①36名　②26名　③28名　　延べ90名
開催場所：県拠点病院会議室（1回）
主要駅近くの地域の貸し会議室（2回）
開催内容：講演会＋グループワークあるいはロールプレイ
・土曜日の半日（13:30～17:00）
・講演①②患者の立場から相談支援に求めること
③就労支援について







企画・開催にあたっての留意点

- タイムリーな企画内容と参加型（グループワークやロールプレイ）であること
- 拠点病院と協力病院それぞれに声をかけ、がん相談員として同じフィールドに立てるようにした
- 患者さんから学ぶ、という視点から会を企画したことで『患者さんたちのために頑張ろう！』という鋭気を共有した。
- 経験年数に関わらず、全相談員対象とした企画内容で参加しやすさを重視した。
- 出張扱いで参加できるように、部会から施設長宛てに協力依頼を出した。

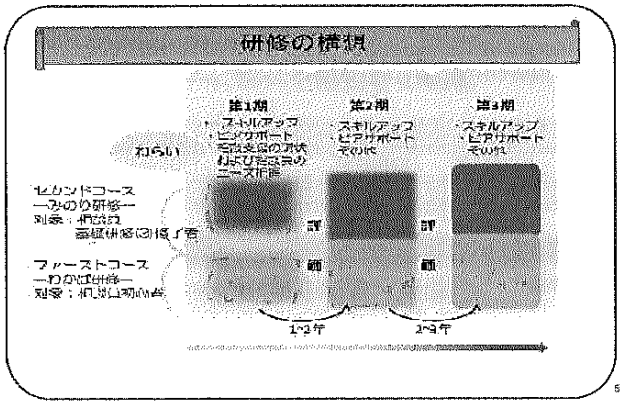
参加者から得られた主なフィードバック内容

- 他病院の実情や取り組みがわかってよかった
- 同じようなことで悩んでいる事がわかってよかった
- ロールプレイで相談支援の新たな視点が学べた
- 県内拠点・協力の連携について考えていきたい
- 相談員同士が顔の見える関係になれた ・・・

東京都

東京都

東京都がん診療連携協議会相談・情報部会
がん相談研修企画・運営チームによる取り組み



5

東京都

東京都でがん相談に携わる相談員の学習ニーズや学習課題

― 相談支援センター相談員研修の構想 ―

◆主催：東京都がん診療連携協議会相談・情報部会
がん相談研修企画・運営チーム

◆共催：東京都福祉保健局

◆協　力：東京都立駒込病院　都道府県がん診療連携拠点病院事務局

ファーストコース -わかば研修-	セカンドコース -みのり研修-
対象者：相談員初心者	対象者：相談員基礎研修（3） 修了者
〈H25年度開催：2013年9月28日予定〉	〈H24年度開催：2013年3月18日〉

6

東京都

“わかば研修”
研修のねらいと開催目的



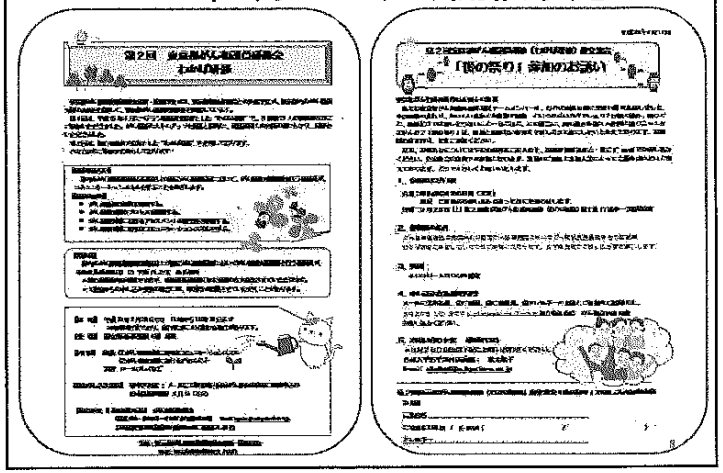
≪研修のねらい≫
- 都内のがん診療連携拠点病院および認定がん診療病院において、がん相談支援業務を行う相談員が、コミュニケーションスキルを学ぶことをめざす。

≪目的≫
- がん相談員の役割を理解する
- がん相談支援のプロセスを理解する
- がん相談支援におけるアセスメントの重要性を理解する
- がん相談支援に必要なコミュニケーションスキルを学ぶ

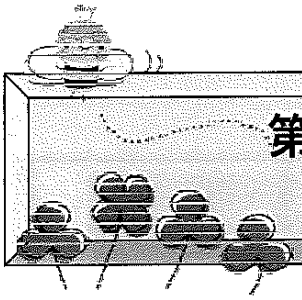
7

東京都

2013年9月28日（土）開催予定



8



第２回　東京都がん相談員研修会
わかば研修

東京都がん診療連携協議会相談・情報部会では、東京都福祉保健局との共催予定で、東京都内のがん相談支援の充実を目指して、東京都がん相談員研修会を開催しています。

第１回は、平成25年3月にベテラン相談員を対象とした“みのり研修”で、21施設29人の相談員の方にご参加いただきました。がん相談のスキルアップを図ると同時に、相談員同士の交流の場にもなり、好評をいただきました。

第２回は、初心相談員を対象とした“わかば研修”を企画しております。

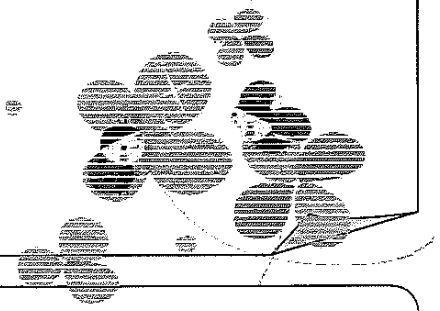
みなさまのご参加をお待ちしております！

【研修のねらい】

都内のがん診療連携拠点病院および認定がん診療病院において、がん相談支援業務を行う相談員が、コミュニケーションスキルを学ぶことをめざします。

【研修の目的】

- がん相談員の役割を理解する。
- がん相談支援のプロセスを理解する。
- がん相談支援におけるアセスメントの重要性を理解する。
- がん相談支援に必要なコミュニケーションスキルを学ぶ。



【対象者】

都内のがん診療連携拠点病院および認定がん診療病院においてがん相談支援業務を行う相談員で、相談員基礎研修(1)（2）を修了した方　30名程度

＊初心相談員向け研修ですので、相談員基礎研修(3)未受講の方を優先させていただきます。

＊１施設からの申し込み多数の場合には、事務局で調整させていただくことがあります。

【日　時】　平成25年9月28日(土)　13時から16時30分まで

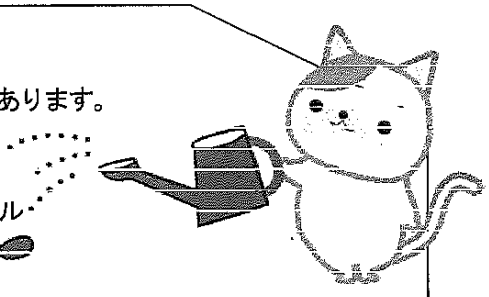
※時間は目安であり、進行状況により変わる場合があります。

【会　場】　都立駒込病院別館１階　講堂

【内　容】　講義：①がん相談支援に必要なコミュニケーションスキル

②がん相談支援におけるアセスメント

演習：ロールプレイなど



【参加申し込み方法】　◎申込方法　：　メールにて都立駒込病院がん拠点事務局に研修申込み

◎申込締め切り　：8月20日(火)

【問合せ先　】都立駒込病院　がん拠点事務局

電話:03－3823－2101(内線5156)　Email:kyotenjimukyoku@cick.jp

(※研修当日の連絡は内線2056にお願いします)

主催：東京都がん診療連携協議会相談・情報部会

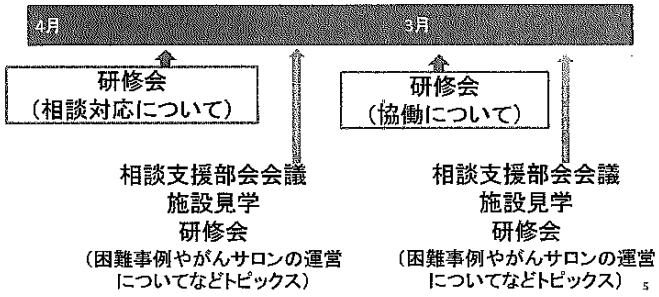
共催：東京都福祉保健局（予定）

神奈川県

研修計画を立案

5年計画：反復した訓練が必要

1年間の流れ



5

平成24年度 神奈川県がん相談員研修の概要

○実施主体
　神奈川県がん診療連携協議会相談支援部会
○協力者
　研修企画コアメンバー
　（相談支援部会の中で組織化）
　　MSW3名　NS4名
○4回の研修会を実施
　研修要綱は別紙参照

研修会の内容

	内容
第1回	相談支援のスキルアップをしよう （相談事例の一部の情報からディスカッション：職種混合グループ構成）
第2回	事例検討 （複雑な問題を抱えるケースへの相談対応（1事例）をもとに事例検討）
第3回	協働について考えよう （病棟看護師への苦情を含む相談事例をもとに協働を考えるディスカッション：職種別グループ構成）
第4回	川崎市立井田病院の相談体制・緩和ケア供給体制の報告 （プレゼンテーション、地域ごとに現状と課題の共有）

平成24年度研修評価　アンケート結果から
（回答率は、4段階評価での「そう思う」の割合）

第1回
相談のプロセスを意識した展開について参考になった（70%）
職種ごとの強みを理解できた（78%）
がん専門相談員としての展望がはっきりしてきた（59%）

第2回
困難事例を振り返り、今後への示唆を得ることができた（64%）

第3回
相談のプロセスを意識した展開について参考になった（64%）
職種ごとの強みを理解できた（76%）
困難事例を振り返り今後の実践への示唆を得ることができた（64%）

おおよそ研修目的に適った学びを得ることができた

研修の課題

相談員の声

「研修の位置づけが不明瞭」



このことは、もとをただすと次の課題を示している

どのような研修を、どのような時期に受けてもらうことが効果的なのか、明らかになっていない

一般に行われている相談員養成のための研修との関連は？

がん相談に求められる特有のスキルがあるのか？

どのように系統立てて、どのような研修を組めばよいのか？

がん専門相談員に求められるスキルについて

それぞれの相談員の考えは、体験している実務に根差していた

（平成24年度　神奈川県内全相談支援センターのインタビュー結果より）

（例）

「一元の電話相談はがん相談以外の相談ではない」

「がん相談も、がん相談以外も療養の場の相談の展開はそんなに変わらない」

職種による強みの違いがある

平成24年度第3回研修会

1事例をMSWのグループとNSのグループで検討

MSWとNSでは解決にむけて目指す方向は同様で着眼点、アプローチの方法が異なった。

MSWグループ：相談者が相談にきたことや、『患者をよい環境に置きたい、よくしたい』という家族の強い思いを、相談者の強みとして注目し、そこに介入しようとすることが特徴的であった。

看護師グループ：家族の苦情の背景を、病状、病期、病気の受容過程、IC等の観点からアセスメントしていたことが特徴であった。また、同職種であるからこそ病棟看護師の脅威とならないよう配慮しようとしていた

基本的に必要なスキルは共通でも、職種間で専門性が異なるので、強化すべき力が同じではない。

都道府県内のがん相談員間で共有されている相談員の姿

- がん専門相談員の役割や機能、求められるスキルについてのイメージは、現在のところ同じではない。
- 研修を通じて、相談支援の現場から、相談員自身で、相談員の在り方を見出そうとしており、その途上にある。

岐阜県

岐阜県がん相談員研修 企画(案)

平成25年8月30日
岐阜大学医学部附属病院
日比野美由紀

岐阜県のがん相談員の現状

（アンケート結果より n:73）

《職種》

MSW（41%）、看護師（45%）と、少数であるが事務職（7%）である。

《所属部署》

相談支援部門（連携室を含む）がほとんどで、他には、外来（化学療法室を含む）、緩和ケアチーム、看護部など。

《がん相談員研修》

拠点病院以外で、国立がん研究センター主催の相談員研修を受講している相談員は1人である。

岐阜県のがん相談員の課題

- 業務として、がん患者を含めた相談対応を行っているが、がん相談を特別なことと、とらえている。
- がん相談において特に留意すべき点やがん関連の最新の情報などの知識を学ぶ機会が少なかった。
- がん相談支援の実務者が相談できるネットワークができていない。
- がん相談支援に係る地域の情報を得る体制がない。

岐阜県のがん相談員研修の対象者と長期到達目標

《対象者》

がんに係る相談に携わる相談実務者

《到達目標》

- がん相談員の役割を理解し、コミュニケーション・アセスメント・情報提供のスキルを高めることが出来る。
- 相談実務者のネットワークにより、情報共有や相談者が相談できる体制を作る。

岐阜県がん相談員研修　5年計画

目的：岐阜県内のがん患者が地域でいつでも相談できることを目指し、

① がん相談員が相談対応のための知識と相談スキルを習得する。②がん相談員が情報共有できる体制を整える。

対象とするがん相談員：岐阜県内のがんに係る相談に携わる相談実務者

	目標	課題	対策
現在 H25 年度	【現状】 ・拠点病院以外のがん相談員は、国がんの相談員研修を受けていないが、アンケート調査結果では学習ニーズがある。 ・アンケートで希望の多かった研修内容は、「心理的問題の理解と対応方法」「がんの経過に伴う療養場所の選択」であった。 ・職種は、看護師・MSW・事務職。 ・所属は、相談支援部門の他、外来・緩和ケアチーム・看護部など。	・がん相談において、特に留意すべき点やがん関連の最新の情報等の知識を学ぶ機会が少ない。 ・相談員が希望する研修内容は、職種や研修履修状況によっても様々である。 ・拠点病院以外でのがん相談ニーズや地域の課題が把握できていない。 ・がん相談員間のネットワーク体制がない。	・がん相談員の役割を理解し、コミュニケーション・アセスメント・情報提供のスキルを高める研修会を、中・東濃で実施する。 ・学習ニーズを考慮して研修を企画する。 ・グループワークで、がん相談支援の実状や課題を把握する。 ・がん相談員のネットワーク体制づくりを、拠点病院のがん相談員で始める。
H26 年度	県内3か所で、がん相談員研修を実施し、 74病院の内、50%の病院が研修に参加する。	地域特性として、岐阜県は面積が広く、山間部が多い。そのため、研修参加者にとって、遠方での研修は参加しにくいと思われる。	・がん相談員の役割を理解し、コミュニケーション・アセスメント・情報提供のスキルを高める研修会を、中・東濃で実施する。 ・グループワークで、がん相談支援の実状や課題を把握する。
H27 年度	がん相談員のネットワークにより、情報共有やがん相談員が相談できる体制が整う。		・がん相談員の役割を理解し、コミュニケーション・アセスメント・情報提供のスキルを高める研修会を、飛騨で実施する。 ・グループワークで、がん相談支援の実状や課題を把握する。
H28 年度	拠点病院も含めた医療機関での、がん相談ニーズと課題が明らかになる。		
H29 年度	地域の特性を踏まえた、がん相談員研修を継続できる。 がん相談員のネットワーク活動が定着する。		

滋賀県

平成24年度
滋賀県がん相談員研修会
実践報告

岡村　理（滋賀医科大学医学部附属病院）
吉田智美（滋賀県立成人病センター）
柴田紀子（公立甲賀病院）

開催目的

本研修Aの目的は以下の2点である

- がん診療連携拠点病院および診療連携支援病院の指定要件であるがん相談支援センターの相談員の資質向上を図る。
- 相談員の研修参加により施設間・相談員間の連携を強化すること。

開催概要（研修A）

- 開催日：平成24年11月22日（木）
  （休日の前日に設定）
- 開催時間：11時～17時30分
  （昼食の時間を情報交換の場として活用）
- 開催場所：滋賀県立成人病センター
- 対象募集要件
  1. がん診療連携拠点病院および診療連携支援病院でがん相談に関わる者
  2. がん相談員基礎研修（1）（2）修了者が望ましい
- 募集人数：15名程度
  →9名参加（Ns：5名　SW：2名　CP：1名　事務：1名）

研修A概要

11時00分～	（10分）	開会・オリエンテーション	
11時30分～	（110分）	コミュニケーションスキルを磨く	講義・ロールプレイ
13時00分～	（60分）	昼食	
14時00分～	（20分）	相談支援プロセスを活かす ～プロセスの概要～	講義
14時20分～	（40分）	事例から学ぶ ～現状を共有する～	DVD視聴 GW
15時00～	（30分）	相談支援プロセスを活かす ～アセスメントの視点～	講義
15時30分～	（10分）	休憩	
15時40分～	（30分）	事例から学ぶ～新たな発見～	GW
16時10分～	（30分）	学びの共有	発表
16時40分～	（10分）	振り返り・評価	
17時		閉会	
		意見交換会	

開催・企画で良かったこと

- 研修評価アンケートを2回（研修直後・3ヶ月後）実施したことで以下の点が確認できた。
  1）研修後の意識の変化等
  2）研修後の実践の場で研修内容がどの程度、活かされているか等

開催や企画にあたり今後役に立つ事、研修開催前後で実感した変化

- 研修を通し各病院の相談員が顔見知りになったことで、相談支援部会で集まっても気軽に相談員同士が声を掛け合うことができている。
- 休日前日に開催し、研修後に意見交換会（のみゅにけーしょん）を行う事で気軽に病院を超えて相談員同士が相談できる環境が出来つつある。
- 相談対応での大きな変化はないが、継続実施での成果が今後期待される。

3ヶ月後のアンケート結果概要

- 相談内容を「からだ」「こころ」「くらし」と整理しながら聴くことができ、アセスメントやサポートに役立てている。
- 問題点を明確にしていけるよう、身体・精神・社会面から情報を整理し、傾聴しながら必要な情報を補うための質問を考えるようになった。
- 多職種でお互いに情報を補いながら連携出来ている。多職種での連携のタイミングも大切。
- 疾患（医療的な情報）について意識し相談支援する様になった。

研修B（がん相談事例検討会）開催概要

- 日時：平成22年度～、年一回3時間程度(1月頃開催)
- 対象：6拠点病院のがん相談員
- 目的：日頃の対応で直面した困難事例を検討・共有することで、県内の相談事例の現状理解と相談員の資質（対処能力）向上を図る。
- 方法：1）事前作業；各相談員から相談困難事例を提示してもらい、各事例に対する対応例を紙面（メール）で各相談員が回答し、検討会当日の資料を事務局が作成。
- 2）当日；資料を基に事例と回答例を討議し、アドバイザー（がん看護専門看護師）よりコメントを提示。
- 平成24年度は、5支援病院にも案内

京都府

平成25年9月6日(金) 相談支援センター相談員指導者フォローアップ研修会

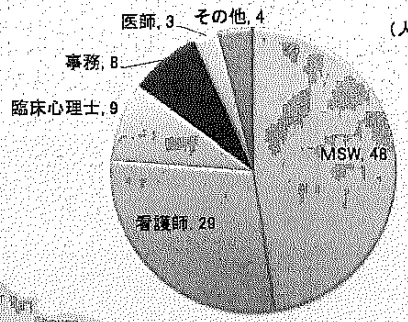
京都府がん医療戦略推進会議

相談支援部会　研修会開催報告

～がん相談支援のレベルアップとネットワーク作りを目指して～

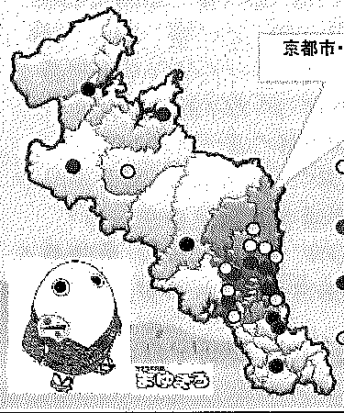
報告者
京都桂病院　入江　篤志
京都第二赤十字病院　平田　千里

京都府のがん相談員の職種(H25.7現在)



合計　101名(専従　16人　、専任　12人　、兼任73人)

京都府のがん診療連携拠点病院および連携病院、推進病院の状況



京都市・その周辺に医療機関が集中している。

- ○都道府県がん診療連携拠点病院
  2病院
- ●地域がん診療連携拠点病院
  7病院
- ●京都府がん診療連携病院
  5病院
- ○京都府がん診療推進病院
  7病院

京都府のがん相談員の現状

- 京都府下におけるがん診療推進病院の認可により、相談支援センターの数も増加している
- 京都府下における相談員同士の情報交換の場として、年3回相談支援部会の会議を開催している
- 平成23年度、初めて相談員研修を開催した(平成24年2月24日)
  テーマ:『がん相談支援に必要なコミュニケーションスキル』
  講　師:静岡県立静岡がんセンター　医療ソーシャルワーカー
  福知　智巳　先生
  参加者:24名(看護師11名、MSW11名、事務2名)
- 研修会後の相談支援部会での話し合いにより、年1回の研修会を継続していくことが決定された

うまくいったポイント

- 府内の相談員が集まりやすい場所の設定、会場提供病院を企画者の勤務病院としたため、会場費も節約できた
- 部会のひとつの活動として、勤務に負担がかからないような日程、時間を設定
- 企画者3名は少ないが、連絡がとりやすかった。打ち合わせも企画者の病院で行い、必要最低限の回数で行うことができた
- 前回の実績があり、アンケートより要望が明確化されていた
- 京都府の担当者が協力的であり、相談や連携が行いやすいこと

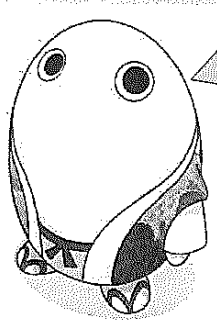
これから企画開催を考えている方々へ

- 1度は開催してみましょう
- 指導者研修会終了者だけでは、大変な労力と時間が必要なことがわかります
- 都道府県のがん対策担当者に働きかけ、動かし、協力してもらえる体制を作りましょう
- 企画者同士の集まりでも、かなり情報収集ができます
- 府内でどのようなメンバーががん相談に携わり、どのような悩みを持ち、どのような研修が必要なのか、少しだけわかりかけてきました
- 研修会に参加することで、人脈が広がります

課題と感じたこと・改善点

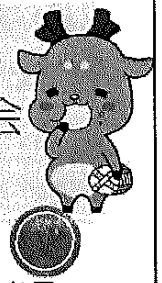
- 内容の濃い研修会を短時間でしようとしたため、時間が超過した（今後内容や時間設定は検討必要）
- 研修会の趣旨に賛同できない参加者への介入方法
- 企画担当者が変わらずずっと続けていくことは困難
- ファシリテーターの確保が難しい（企画者がファシリも兼ねたためどちらも中途半端になった）
- 企画者が受付や司会、準備も担当したが、運営スタッフの人員確保の問題があった
- 第1回研修会担当者の企画参加がなかった
- 拠点、推進、協力病院以外のがん相談に携わる人たちのニーズ把握はできず、均等な研修の機会にはなっていない

ご清聴ありがとうございました



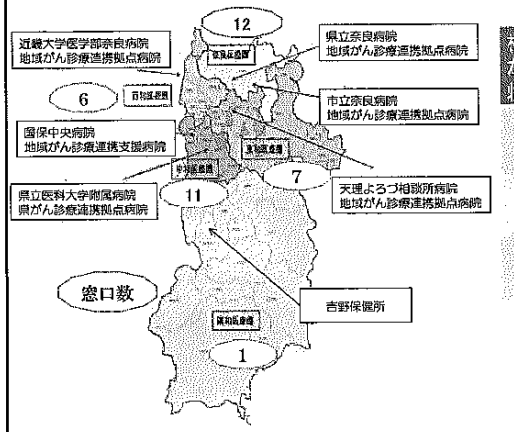
奈良県

奈良県
がん相談支援従事者研修会
～実践報告～



奈良県立医科大学付属病院　川本　たか子
県立奈良病院　松原　操
市立奈良病院　野武　栄子

奈良県がん診療連携拠点病院と相談窓口



窓口数	相談窓口でのがん相談対応状況	施設数
	対応可能	24
	相談内容により対応可能	13
	対応困難	7

目指す相談員の姿と現状

- 県がん対策相談支援分野目標

すべてのがん患者・家族が、その不安、悩み、疑問に対して必要な情報を手に入れることができ、悩みや疑問が軽減する

- 目指すべき相談員の姿

相談員の役割は対象の理解に基づく課題の明確化、情報提供と助言提案で課題解決のための選択を支援すること

職種の専門性を生かし　チームで支援

（院内連携・地域連携）

- がん診療連携拠点病院・相談支援センターがない地域がある。
- がん医療にかかわる相談には対応できない。（医師や看護師がいない）
- 問題解決を重要視する傾向にある。
- 多職種が集まる機会がない。（限られたネットワーク）

研修会の目的と対象者

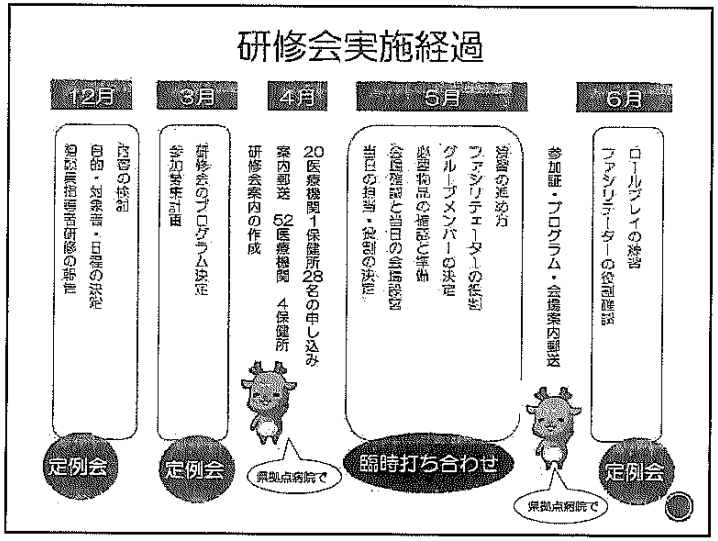
- 目的

1 奈良県のがん医療とがん患者の現状について知る
2 がん医療における相談員の役割について理解する。
3 相談支援に必要な知識・技術について学ぶ

- 対象者

＊平成23年12月実施の県内医療機関の相談窓口状況調査で公表可能と返答した医療機関52施設の相談部門の担当者
＊県の4保健所
＊がん相談支援に従事または従事予定がある者
＊職種・相談経験年数は問わない

研修会実施経過



実施概要

＊開催年月日＊平成25年6月8日（土） 9時～16時３０分

＊参加者の状況＊

★研修受講者24名(２１施設)

看護師6名　社会福祉士11名　MSW5名　保健師2名

がん相談の経験の有無

社会福祉士11		看護師6		MSW5		保健師2	
経験有	経験無	経験有	経験無	経験有	経験無	経験有	経験無
4	7	2	4	3	2	0	2

★研修担当者12名(拠点病院相談員9名　県がん対策係担当者3名)

受付、司会、録音・録画、講師、ファシリテーター、役者等

＊開催場所＊

奈良県立医科大学　厳橿会館　　会場使用料無料

プログラム

時間	内容	担当者
9：15～9：30	オリエンテーション	
9：30～10：00	奈良県のがん医療の現状と対策	県担当者
10：00～10：30	がん相談の現状・相談員の役割	相談員
10：30～10：50	患者・家族の思いを知る	ピアサポーター
10：50～11：05	休憩	
11：05～12：35	演習　セカンドオピニオン	相談員
12：35～13：30	昼食	
13：30～16：00	演習　終末期の療養生活支援過程	相談員
16：00～16：30	まとめ	

研修内容

- 奈良県のがん医療
  - がん患者と医療の動向　第2期がん対策について
- がん相談員の役割
  - サポートガイド紹介
  - がん相談10の原則（がん専門相談員のための学習の手引き）
- 患者・家族の思いを知る
  - 終末期の夫支援中に自らもがん治療を体験した方のお話
- 演習
  1. セカンドオピニオンを希望する相談
     ロールプレイの提示後相談の在り方を検討
  2. 終末期療養生活支援　（積極的治療からの移行）
     ロールプレイの提示後の相談支援を展開
     逐語録の作成とロールプレイで発表

大阪府



府内がん相談員の動向と学習機会の現状

- 業務内容や院内での位置づけは施設ごとに差がある
  国指定(14)＋府指定(46)＝計60のがん診療拠点病院では、兼務の状況、院内での位置づけ、紹介経路等さまざま
- がん相談員の困りごとは多岐に亘る
  医療知識、相談対応、相談件数のカウント、記録、広報、多職種連携等
- 学習機会の現状
  ＞年2回の相談支援センター部会の一部を研修会として活用
  ＞H24年度より、連絡事項および発表＋医療圏毎に分かれて自由な情報交換という傾向
  ＞H24年4月に相談支援センター部会運営委員会が発足し、現在は委員15名が企画・運営を担当

2

相談支援センター部会における課題

- 自由な情報交換で相談員の困りごとの共有はできても、具体的な解決策や新しい取り組みの情報交換にまで発展していかない
- 医療圏毎の情報交換は、メンバーが固定化し、いずれ内容が尽きてしまう恐れがある
- グループワーク形式が定着しつつあり、構造化を求める意見が出されるようになった
- 参加施設から学習機会の提供が期待され、現在は部会の大部分を研修が占めており、議論や討議の場という本来の機能が薄れつつある

3

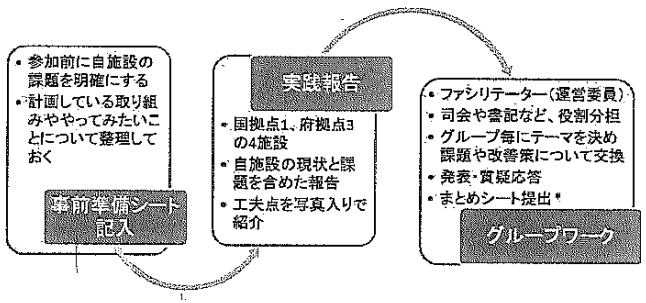
研修の目的と学習目標

- 自施設の課題や困りごとを事前に明確化し、他施設と共有する
- 対応策や、既に行っている取り組みに関する情報を交換する

- 他施設から得た情報のうち、自施設で導入可能な具体策を見出す
- 相談員同士でネットワークを構築する意義や強みを理解する

4

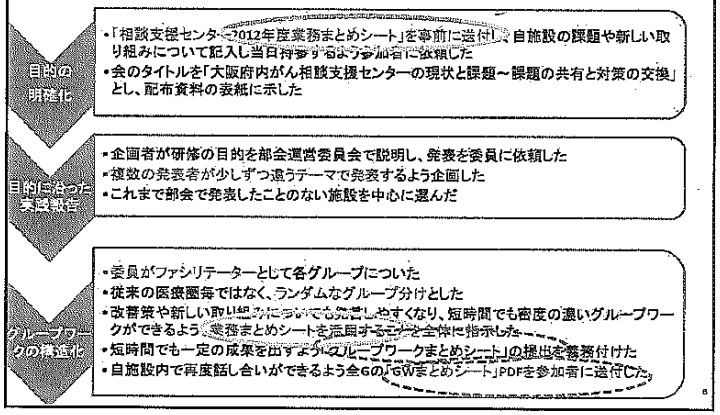
研修の概略



＊約3週間後議事要旨と全GのGWまとめシートPDFをメール送付

5

留意した点(仕掛け)



8

実践報告のテーマと内容

- 「がん相談支援センターの現状と課題」(2名)
  主な相談内容、相談件数を増やすための広報手段を写真を掲げて紹介し、さらに運営方法や相談の質評価等の課題について述べた
- 「院内患者会の支援業務」
  乳がんと血液がんの患者会について、立ち上げから現在までの関わりと、会の効果および抱える課題について相談員の立場から述べた
- 「がん相談支援センターとチーム医療」
  院内の相談窓口を一本化した「患者支援センター」設立の経緯とセンター内多職種との連携内容について紹介したほか、主な相談内容、紹介経路を増やすための取り組みについて述べた

7

研修概要

- 日時:H25年6月15日(土)
- 対象:府内拠点病院がん相談支援センター
- 方法:相談支援センター部会を活用
- 協力体制:部会運営委員
- 参加人数:53病院78名
- 開催場所:府立成人病センター
- 開催内容:
  実践報告＋グループワーク＋発表
  ＋GWまとめシートPDF送付(約3週間後)

8

兵庫県

兵庫県
相談支援センター相談員指導者フォローアップ研修
～実践報告～

チームメンバー
・兵庫県立がんセンター　橋口　周子
・姫路赤十字病院　北山　さゆり
・関西労災病院　渡部　昌美

1

兵庫県の相談員の課題

相談技能の習得

（理由）
・相談員が困っていること、問題と感じることに、
専門的な知識不足

・期待すること、取り組みたいことに、
相談員の相談技能の向上

2

研修の概要と開催目的・目標

概要
相談支援センター実務者ミーティングを利用し、相談員自身の事例を用いて相談支援の各プロセスの一つ一つを意識化する。

目的
相談員の技能の向上を図る。

目標
①相談支援のプロセスの全体像の理解を深める。
②事例提供者は自らの相談技能の特徴を知ることで、個人の課題を見つける。
③研修を積み上げることで、研修の次の課題を見つける。

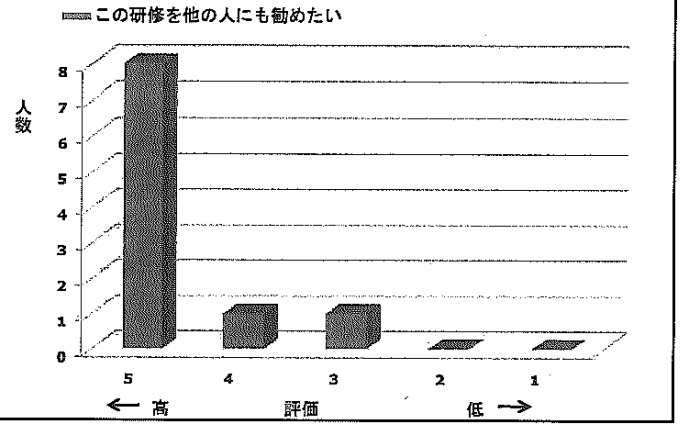
3

全体スケジュール

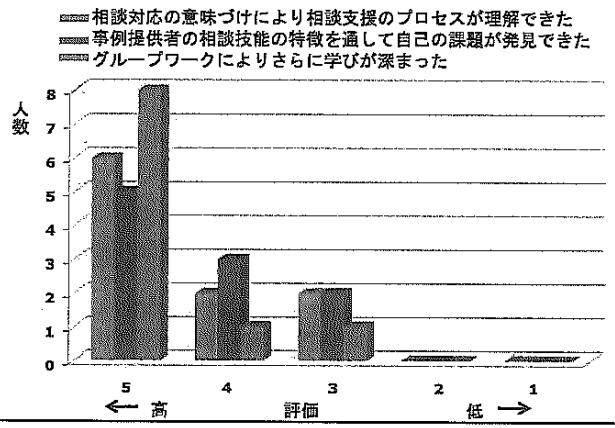
段階	内容	詳細
STEP1	事前課題の準備	うまくいった相談事例を逐語録にまとめる
STEP2	相談事例の振り返り	事例を用いて相談対応の意味づけをしていく 参考：相談支援のプロセスの全体像
STEP3	グループで共有	事例提供者の相談技能の強み弱みについて話し合い
STEP4	全体共有	各グループで話し合った相談対応の意味づけの結果の発表とグループワークからの学びを共有する

4

アンケート結果
ー研修推奨度ー



アンケート結果
ー理解度ー



アンケート結果 ー自由記載ー

- 逐語録にするだけでも振り返りができた。
- 面接時の自分のくせを知ることにより、相手へ与える印象なども考え、見直す機会にすることができた。
- この形式の研修を定期的に続けて欲しい。
- 事前課題が大変だった。
- 逐語録もテープにとったものではないので分析が難しかった。
- 研修の位置づけが解らないので、参加するのも病院として困る。

11

今後の課題

・研修会の位置づけ
・修了証書の発行
・今後の研修企画と運営

研修が公的なものになるように
各地域で実施している研修への参加が
拠点病院の指定要件に入るような仕組みを作る

疑問
相談技能が向上したかの
研修の評価は？？？

広島県

広島県
がん相談従事者向け研修報告

広島大学病院　織田浩子
広島赤十字・原爆病院　札埜和美
広島市立広島市民病院　山崎恭子

広島県の相談支援センターの状況

がん診療連携拠点病院
11病院

広島県指定のがん拠点病院
5病院

相談連携・情報共有

★がん相談員意見交換会を定期的に開催
★がん相談員：看護師、医療ソーシャルワーカー

広島県「がん患者フレンドコール」
実施団体：NPO法人広島がんサポート（H20年～）

がん相談員研修広島県の受講人数

研修種別	H19	H20	H21	H22	H23	計
基礎研修(1)	13	11	19	15	15	73
基礎研修(2)	3	25	16	12	14	70
基礎研修(3)	ー	6	9	13	6	34
トレーナー研修	ー	1	1	ー	ー	2

広島県のがん相談員の現状

- 広島県がん相談員の質向上を目的に年3回勉強会を含めた情報交換会の開催
- 相談支援センターに配置されているがん相談員は、配置転換や退職によりメンバーが毎年変更
- 要件であるがん相談員研修以外に、がん相談員に必要な知識や面接技術に関する学習機会が少ない

がん相談に携わる相談員の学習課題

- 年3回のがん相談員の意見交換会で、がんの治療や疾患の特徴などについて学習機会を持つように企画しているが、漠然とした不安や精神的な落ち込みなど患者・家族の気持ちを聴く技術を磨く機会が少ない。
- がん患者・家族の相談において傾聴のための面接技術の向上が必要である。

対象層

- 国、県指定広島県内のがん診療連携拠点病院のがん相談員
- フレンドコール（広島がんサポート）相談スタッフ（患者団体）

予算

- 予算なし
  →これまで実施している意見交換会内で実施

研修企画

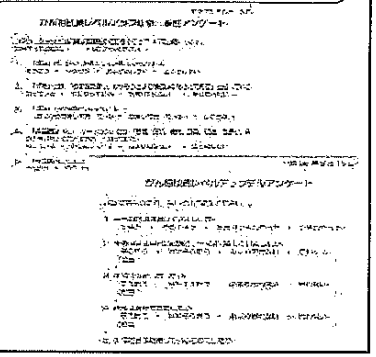
実施主体	がん相談員
協力者	《講師》佐伯俊成先生（市立三次中央病院緩和ケア内科医長）
目的	がん相談員として面接場面でのコミュニケーション技術の向上を目指す
対象	• 広島県内の国・県指定のがん診療連携拠点病院のがん相談員（基礎研修を受けていているかどうかは問わない） • フレンドコール（広島がんサポート）においてがん相談を受けている方
学習目標	がん相談員が「傾聴」の知識と技術が習得できる
研修評価	事前・事後アンケートと全体アンケート

研修評価方法（アンケート内容）

- 研修の評価をするために、事前、事後、全体、の3つのアンケートを作成した。事前アンケートと事後アンケートはほぼ同一のもので、理解度の促進について評価することとした。事前アンケートの実施によって、がん相談員として自分の課題をみつめてもらっての課題を持っての研修参加を意図した。

1. アンケート内容
＜事前・事後＞
傾聴，非言語的コミュニケーション，傾聴のスキル（沈黙，共感，感情の　反映）についての必要性，理解度，自信，実践について
＜全体＞
課題の達成度，自己の課題とのテーマの一致，満足度理解度，期待度，　役立ち度，研修時間

2. 評価方法
「そう思う」「思う」「あまり思わない」「思わない」の4段階尺度
その他の自由記載



研修当日までの動き

3月下旬
- 講師である佐伯先生にがん相談員研修目的を説明し、講師依頼→内諾
- 意見交換会担当病院、市立三次中央病院に会場等の確保など依頼

4月
- 市立三次中央病院と日程等調整し、日程、講師決定
- 広島県がん相談員に意見交換会内で企画研修をしてもよいか確認メール（4/26）

5月
- 市立三次中央病院より開催通知（5/10）
- 講師と打ち合わせ（メールにて）（4月～5月中旬）
- 市立三次中央病院へ当日の依頼(5/14)
- レベルアップ研修案内配信（事前課題も）（5/20）
- 企画者で事前打ち合わせ、シナリオ作成（5/25）
- 参加人数確認（6/10）
- 事前アンケート配信（6/10）

徳島県

目指す姿と現状の間に生じている差異

●各拠点病院及び推進病院間の意思疎通が図れていないため、協働・連携が難しい。
●各拠点病院及び推進病院間で相談支援部門に対する考え方が異なる。(★経営と相談のバランス)
●企画案の提案・説明(プレゼンテーション)を実施する「場」がない。
●所属組織における立場と指導者研修修了者としての立場・使命からくる葛藤。

5

徳島県で検討・実践してきた取り組みの概要・Ⅰ

①「がん相談従事者向け研修会」を企画・運営するにあたり、指導者研修修了後(2012年11月)、徳島県がん担当所管課と協働・連携し、相談支援関連部会設置に係る設立趣意書を都道府県がん診療連携拠点病院へ提出(2012年12月)。

②徳島県がん診療連携協議会において、2013年3月7日(木)、「情報提供・相談支援部会」の設置が認められた。

6

徳島県で検討・実践してきた取り組みの概要・Ⅱ

③情報提供・相談支援部会の下部組織に、がん相談支援センター作業部会(WG)を設置するよう要望。

④2013年8月現在、徳島県がん診療連携協議会事務局が、部会及び作業部会の委員人選作業中。

⑤指導者研修修了者(3名)は、初回の部会及び作業部会時に、県内の「がん相談員アンケート調査」を実施提案できるよう、準備を進めている段階。

7

徳島県で検討・実践してきた取り組みの概要・Ⅳ

⑥部会及び作業部会で実施・検討いただく(案)を作成。

➢目的　：●相談支援のプロセスを学ぶ
●県内におけるがん相談員同士の交流を図るためのきっかけの場
➢対象　：1.徳島県内の拠点病院・推進病院の相談支援に携わる者(相談支援部門に所属する医師、看護師、メディカル・スタッフ等)
2.がん相談経験年数5年未満の者が望ましい

8

徳島県で検討・実践してきた取り組みの概要・Ⅴ

⑥部会及び作業部会で実施・検討いただく(案)を作成。

➢学習目標：●相談支援のプロセスを理解する
●相談者の主訴の裏にある潜在的ニーズをキャッチする
●相談員が持つべき視点、又、知識・技術・情報について理解する。

➢内容　：実際の相談場面を想定した事例を用いて、個別相談支援業務におけるプロセスを理解する内容

9

徳島県で検討・実践してきた取り組みの概要・Ⅵ

⑥部会及び作業部会で実施・検討いただく(案)を作成。

➢方法　：講義形式及びワークショップ形式の研修方法で実施

➢評価　：●受講者へアンケートを実施する
※学習目標の達成度(4段階)
研修内容や時間設定・場所等への評価
●研修実施/研修企画の評価・総合評価
※企画者である情報提供・支援部会で振り返りを行い、研修目的の達成度を含む評価結果を次期研修企画へ反映する

10

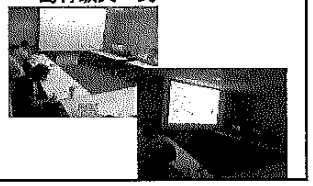
徳島県で検討・実践してきた取り組みの概要・Ⅶ

⑦第１回がん相談員連絡会の開催

・日　時：平成25年8月29日(木)　19:00～20:00
・場　所：徳島県立中央病院　３階　会議室
・参加者：7名
（徳島大学病院、徳島県立中央病院、徳島赤十字病院、徳島県立三好病院、徳島県立海部病院）

＜内容＞
１）徳島県のがん相談支援の現状報告
徳島赤十字病院　島村敏文　氏
２）情報交換会（座談会形式）
各医療機関の現状・取り組みの報告





検討・実践にあたり必要なサポート

＜国立がん研究センターがん対策情報センターに対して＞



・「研修マニュアル作成」の検討
・「使用教材(事例等)」の統一を検討

☞がん相談支援の「均てん化」を目指すのであれば、上記の検討が必要。
基本ベースの中から、各地域の特性や情勢に応じてアレンジできれば、研修の幅も広がるものと思われる。

＜全国の指導者研修修了者に対して＞



・先進的な取り組みを行っている都道府県を参考にさせて頂きたい！！

☞国立がん研究センターがん対策情報センターが準備を進めて頂いている「情報共有サイト」を活用したいと考えている。又、個人的にもアドバイスを賜わりたい。



福岡県

～相談員指導者フォローアップ研修～

相談員のための学習の機会をつくる

福岡県の相談員研修実践報告を通して



福岡ブロックがん診療連携拠点病院
○九州がんセンター　竹山　由子
九州厚生年金病院　高田　由美子
北九州市立医療センター　山中　和美

当初の研修予定

現在

- 平成２４年１１月　会場確保
- 平成２５年１月　講師及びファシリテーター、がん体験者等の協力依頼
- 平成２５年５月連休明けより　研修生募集（５月いっぱい）
- 平成２５年６月初旬　研修生への参加決定通知の配布
- 平成２５年６月　参加者一覧表の作成およびグループ編成を行う
  最終的にファシリテーターの参加者の決定、役割分担
  講師の最終確認及び配布資料の確認、作成
  備品準備（名札、修了証など）、教材準備
- 研修会開催２週間前　ファシリテーターの招集、事前会議
- 平成２５年７月　研修会実施

2

福岡県相談員取り組み

H24．7に第１回福岡県拠点病院相談支援センター実務者会議を開催。
（それまでは、県主催で年に１回拠点病院連絡会議を開催していた。）

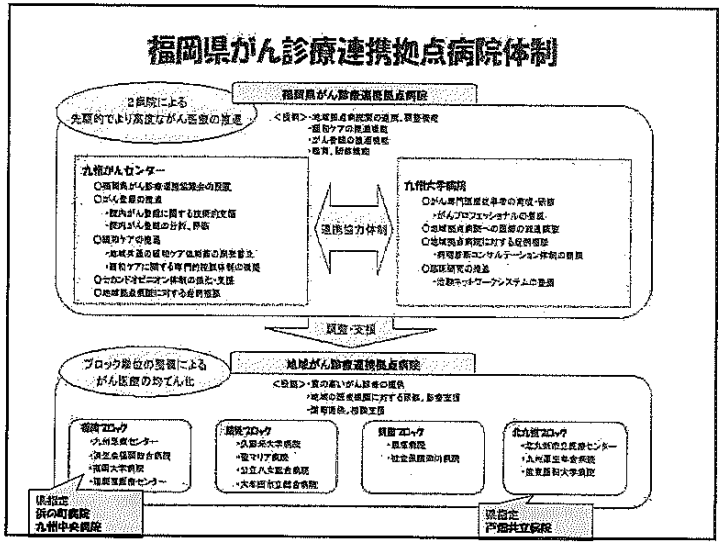
内容　①アンケート内容の報告
②他県の取り組みの報告
③フォローアップ研修の報告
④グループワーク（福岡県でどのような相談員の研修会を開催していくか）

＊　相談員研修を自分たちで開催していく意図が伝わらなかった。
＊　福岡県拠点病院で計画すればいい。

九州沖縄ブロック
地域相談支援
フォーラム

福岡県拠点病院と相談員指導者研修を修了したコアメンバーを結成。
コア会議の中で企画を練り、実働を開始。
メンバー：9名（福岡県がん拠点病院相談員4名・
指導者研修修了者4名・福岡県1名）

福岡県がん診療連携拠点病院体制



企画・開催 NO1

留意点 気を付けた事やうまくいったポイント	• 院内での講師の選択・院内の事例を用いて事例検討会を企画 • 都道府県拠点病院から参加者には招聘状を出し、研修に参加しやすい環境を提供 • がん診療連携協議会や地域連携情報専門部会のバックアップ活用
難しかった点 今後の改善点	• 各県独自に研修開催する意図を相談員や各拠点病院に理解してもらう事が難しい • 修了証の発行のニーズが多く、福岡県レベルで魅力のある研修会にする事の検討 • 予算がない事、その為の研修内容の限界 • 行政を巻き込む作戦が必要
役に立ったサポート・アドバイス	• 国がんの高山先生からの情報提供(神奈川県の相談支援部会設置要綱の紹介) • がん診療連携協議会の地域連携・情報専門部会の活用(取組状況を定期的に報告し、病院としての協力をお願いする場にした) • 県の協力(コア会議の場所の相談) • 招聘状の活用(時間内の会議全てについて出してもらう)

企画・開催 NO2

研修会の開催前後の変化	• 疾患の学習の機会を持つ事ができた • 相談事例のグループワークを通し、視野が広がった(他施設・他職種の見解や別の角度からの対応)
● 都道府県内の協力体制 ● 指導者研修参加前の学習機会等の開催状況	• 福岡県として研修会企画 0 ⇒ 年に数回企画開催 • 相談員指導者研修会参加を各ブロックから平等に参加することを決めた • 研修会の開催を各施設の持ち回りで行う事を決めた



- 研修会の目的をはっきりさせる
- 無理をせずにできる研修内容から企画する
- 病院内や行政に協力を呼びかける
- 都道府県拠点病院から、招聘状を出す
- 県の中で推進していくコアメンバーを組織する
- 県の担当者を巻き込む(会議への参加、研修内容に県の取組を取り入れる)

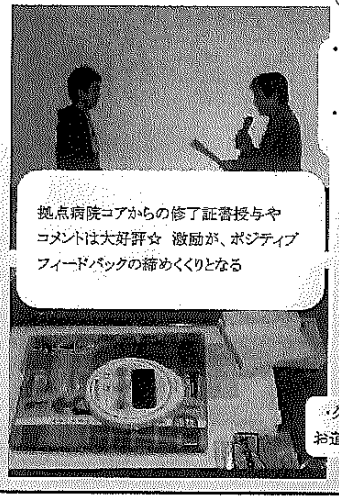
ご清聴ありがとうございました。

現在一丸となって第2回九州・沖縄ブロック地域相談支援フォーラムの開催に向けて取り組んでいます。



佐賀県

☆モチベーションを高める演出とツール☆



・都道府県拠点病院相談支援センター長名の修了証書を作成
・拠点病院長より証書授与の場面を設ける

拠点病院コアからの修了証書授与やコメントは大好評☆ 激励が、ポジティブフィードバックの締めくくりとなる









・グループワークツール
お道具箱の存在価値大！！

目的達成のために役立ったツール

目的1
- 相談支援センターが核となり、支援病院の相談実務者および訪問看護、居宅介護支援事業所の各専門職も含め、共通のがん相談対応の知識・技術を向上させる

目的2
- 顔の見える関係の構築を目指す



目的1の達成のために、全職種に有効で好評だったツール



実施結果から、今後様しょうな取り組みを検証する

☆お手元のアンケート結果をご覧ください☆
受講者の満足度は高く、不服や混乱もありませんでした。

しかし、山積する課題もあります。
研修実施プロセスとアンケート結果、反省会などで得た声をもとにPDCAサイクルを用いて開催ごとに項目別に評価し、回を重ねることにスパイラルアップできるよう、取り組むことにしました。

タイムテーブルとプログラム・実行委員役割

H24.10.15
チーム宿泊会議
・課題の協議

1月中旬
・案内文書送付
・講師依頼文書送付

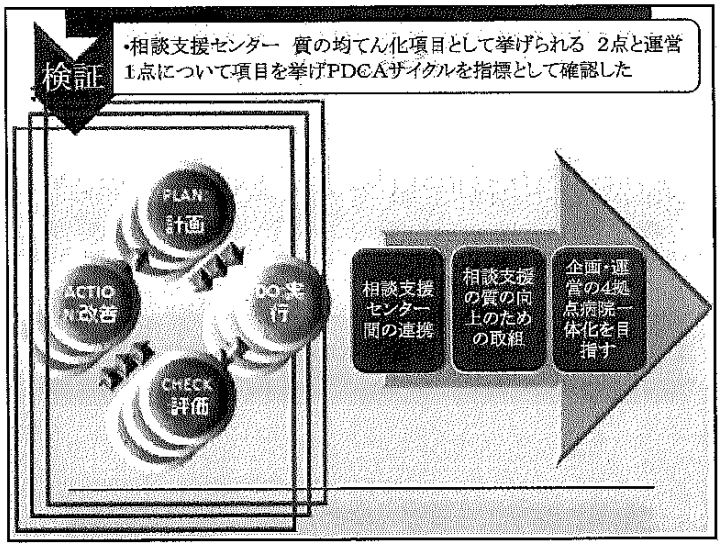
H25.3/9(土)
研修実施日
・研修計画
・研修実施

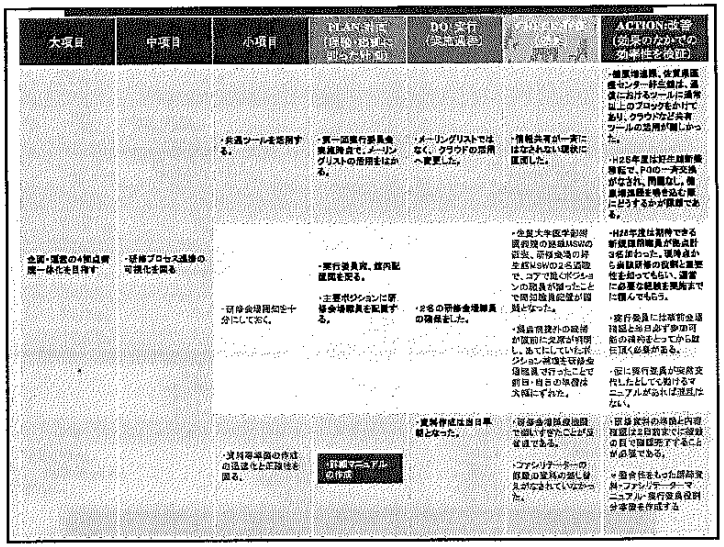
H25.3/12(火)
参加申込締切

12月中旬
相談支援センター連絡会
・実行委員会

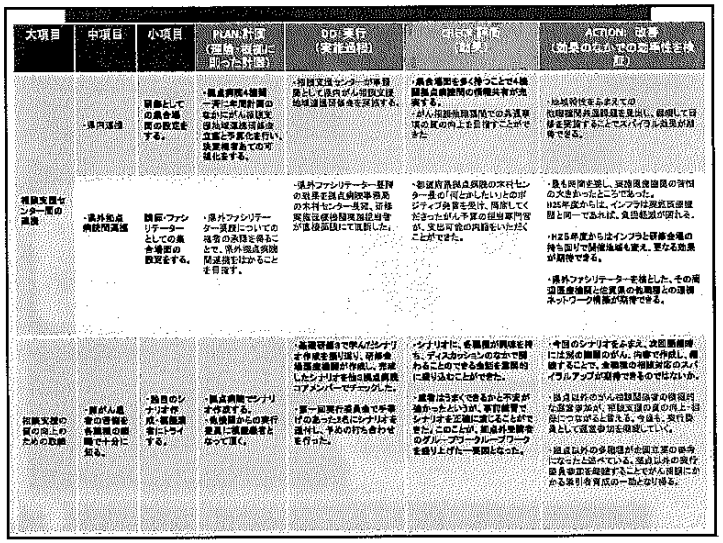
No.	時間	プログラム	担当	講師スライド・資料	
1	9:00～9:30	受　付		受付時間にファシリの打合わせ	江口病院　前田さん　免実病院　下田さん
2	9:30～9:50	挨　拶		本村課長・岡山先生・筒・岡本課長・	佐賀県庁　大上主査・岡本課長補佐がん対策担当係長、 拠点病院
3	9:50～10:00	オリエンテーション			唐津赤十字　岩田さん
4	10:00～10:05	アイスブレイク がん相談の概要説明資料作り	グループワーク		野北病　大石・前田・岩山
5	10:05～11:00	グループ討議	前田		
6	11:00～11:15	講義			
7	11:15～11:15	質　疑		クラスタスのパンがお弁当	ファシリテーター・実行委員の昼食準備　慈仁堂クリニック　前田さん　江口病院　岩岡さん　小城市民病院　岡本さん
8	11:15～12:20	意見技討オリエンテーション			佐賀大学病院　石丸さん
9	12:20～12:40	相談統計・肺がんの患者のターミナル 移行期の在宅支援（地域編）			独立生活病院委員さん　総合医療協会松本さん　佐賀県庁　大上主査
10	12:40～ 10:50	役割分担・医師紹介			
11	12:50～14:50	チーム医療の指定医療制度を見直そう	グループワーク		
12	14:50～15:00	休　憩			
13	15:00～15:50	グループ発表	前田		各グループに実行委員一人がつく
14	15:50～16:20	全体協議・まとめ・アンケート			唐村部長　唐津赤十字病院岩田さん　脳野医療センター 岡山さん
15	16:20～ 15:30	挨拶			

相談支援センター相談員指導者フォローアップ研修
プレゼンテーション用スライド_佐賀県





大項目	中項目	小項目	PLAN:計画（理由・背景に即した計画）	DO:実行（実施過程）	CHECK:評価（結果）	ACTION:改善（効果のなかでの効果性を検証）
		・共通ツールを活用する。	・第一回運行委員会開催時合せ、メーリングリストの活用をはかる。	・メーリングリストではなく、クラウドの活用へ変更した。	・情報共有が一部にはなされない環境に限定した。	・佐賀県医療センター好生館は、県庁に設けるツールに通常以上のブロックをかけており、クラウドなど共有ツールの活用が難しかった。 ・H25年度は好生館新棟移転で、FOMO一斉無線が設置され、問題なし。但し県庁関係者を含む第三者にどうするかが課題である。
企画・運営の4拠点病院一体化を目指す	・研修プロセス連携の可視化を図る	・研修会場周知を十分にしておく。	・運行委員資、庶内配置図を添る。 ・主要ポジションに研修会場職員を配置する。	・必要の研修会場職員の確保をした。	・佐賀大学医学部附属病院の基礎MSWの協力、研修会場の非全日MSWの2名追加で、ケア職へポジションの設置が図ったことで関連職員配置が図られた。 ・県庁関係外の職場が当初に支援が判明し、あてにしていた代ジション候補を研修会場職員で行ったことで前日・当日の体制は大幅にずれた。	・H25年度は期待できる新規職員職員が県庁計3名加わった。職場及から県庁研修の役割と重要性を知ってもらい、運営に必要な経験を実施までに積んでもらう。 ・庁行委員に当日前全連絡調整と当日及び参加可能の連絡をとってから庁任頂く必要がある。 ・仮に庁行委員が突然支代したとしても対けるマニュアルがあれば混乱しない。
		・実施等準備の作成の迅速性と正確性を図る。	・詳細マニュアルの作成	・実施作成は当日早朝となった。	・研修会場関係機関で調しすぎたことが反省点である。 ・ファシリテーターの役割の重要の認し合えていなかった。	・研修資料の準備と内容確認は2日前までに研修の打ち合せをすることが必要である。 ・各会性をもった研修実施・ファシリテーター・マニュアル・庁行委員役割分担表を作成する。



大項目	中項目	小項目	PLAN:計画（理由・背景に即した計画）	DO:実行（実施過程）	CHECK:評価（結果）	ACTION:改善（効果のなかでの効果性を検証）
相談支援センター間の連携	・県内連携	研修としての集合場所の設定をする。	・拠点病院4箇所一斉に年間計画のなかにがん相談支援地域連携研修会を企画し予算化を行い、効果検証をあての可視化をする。	・相談支援センターが事務局として県内がん相談支援地域連携研修会を実施する。	・県会場数を多く持つことで4拠点病院の情報共有が先実する。 ・がん医療施設間での共通単項の質の向上を目指すことができた。	・地域特性をふまえての相談関係者連絡組織を見出し、継続して研修を実施することでスパイラル効果が期待できる。
	・県外拠点病院間連携	講師・ファシリテーターとしての集合場所の設定をする。	・県外ファシリテーター要請についての複数の承諾を得るにあたって、県外拠点病院間連携強化をはかることを目指す。	・県外ファシリテーター研修の実行センターの担当者が拠点病院間にて実施した。	・相談所員拠点病院の本村センター長が「何とかしたい」とのポジティブ発言を受け、開催してくださったが、予算の担当者が、支出可能の内容をいただくことができた。	・県を問わず参加、実施可能施設の皆様のさまざまところで出た。 H25年度からは、インフラは県庁医療連携と同一であれば、負担軽減が図れる。 ・H25年度からはインフラと研修会場の持ち回りで関係地域も変え、更なる効果が期待できる。 ・県外ファシリテーターを核とした、その相談医療機関と佐賀県の地域等との連携ネットワーク構築が期待できる。
相談支援の質の向上のための取組	・県がん相談の各種会議の開催で十分に図る。	・施設のシナリオ作成・実施準備にアドバイスする。	・拠点病院でシナリオ作成する。 ・各施設からの実行委員に実施概要をなって頂く。	・基礎研修で県内シナリオ作成を振り返り、研修会場医療施設が作成し、完成したシナリオを他の施設病院にメンバーでチェック。 ・第一回実行委員会で予算の見一たったらシナリオを選択し、予めの打ち合わせを行った。	・シナリオに、各職種が興味を持ち、ディスカッションのなかで関わることができる会話を意図的に盛り込むことができた。 ・進行はうまくできるかと不安が強かったというが、事前練習でシナリオを正確に演じることができた。このことが、拠点外医師会のグループワークを盛り上げた一要因となった。	・今回のシナリオをふまえ、次回開催時には別の課題のがん、内容で作成し、開催することで、全施設の相談対応のスパイラルアップが図れることのできるのではないか。 ・拠点以外のがん相談関係者の積極的な参加があり、相談支援の質の向上・組織につながると言える。今後も、実行委員として運営参加を継続していく。 ・組織以外の多職種が企画立案の参考になったと言っている。組織以外の実行委員参加を継続することでがん相談にかかる裾引き資成の一助となり得る。

佐賀県での研修実施後の検証で見えてきたポイント

＜改善すべきポイント＞

・予算・支出の確定は、講師・ファシリテーターへの全箱をもった連絡を行うことを踏まえ、半年前には決定しておくことが必要でした。

・拠点以外の実行委員は、準備実施前にするの仕組しく、参加者募集のPRや広報委員のような分掌で実施した方が、当日の混乱がありません。

・独点病院の相談支援センター職員は、マニュアル作成を目指さず、併せて、前日までに会場確認を行い、会場となる医療機関の相談員と導線の確認などをしておくことが必要です。同伍になったら、集まりましょう。

＜効果的ポイント＞

・チームワークのとれた講師とファシリテーター間の牽引力やポジティブフィードバックが、グループワークの運成感やモチベーションの向上に直結していました。

・グループワークで用いたシナリオは、相談ニーズから浮上した地域特性を踏まえた複数の課題を盛り込んだ内容でしたが、他職種はその課題を実感しており、グループワークが熱いものになり楽しした。更に、作成側も、ニーズからの展開を想定しながら行う事ができ、スキルアップにつながりました。

長崎県

長崎県の取り組みについて

長崎医療センター　浦山晶子
長崎大学病院　安藤真紀　青木美帆

長崎県のがん相談員の現状

- がん相談担当者数（6拠点病院2推進病院）
  看護師　12名　MSW　20名　医師　3名
  その他（心理士等）2名　計37名（平成25年6月）

・基礎研修修了者
基礎研修1・2・3修了者　16　名（平成24年度現況調査より）
基礎研修1・2修了者　　3　名（平成24年度現況調査より）
指導者研修修了者3名　平成25年度2名修了予定



長崎県内のがん相談員間で共有されている目指すべき相談員の姿

- 相談員の知識・技量等の標準化。
  職種に関わらず、基礎研修で学んだ基本的知識を身に付けておく。
- 病院間の情報共有・顔の見える連携、院外の多職種・患者会等との連携
  がん相談における問題点や課題を共有し、問題解決に向けて病院間や多職種との連携に取り組む。



目指すべき相談員の姿と現状の差異

- 相談員の知識・技量の標準化の程度を評価する方法が確立していない。

- 相談員間の情報共有や連携の密度が高いとは言えない。（メーリングリストの活用頻度が低い。）



学習の機会を重点的に設けるべきと考えられる対象層

- がん診療連携拠点病院及び推進病院の相談員37名
  MSW ： 医療的知識の強化
  看護師： 福祉制度や院外多職種との連携

（今後）
- 拠点病院以外のがん患者・家族に関わるがん相談支援担当者に学習の機会をどう拡大していくかを検討する必要がある。



必要と考えられる価値・知識・方法

① 各種がんとステージに対応した適切な情報提供

② がんに伴い生じる心理社会的側面の課題について理解し、的確な支援を行うための知識や技量



平成24年度がん相談員向け研修会

- 実施主体
  長崎県がん診療連携協議会　相談支援WG
- 協力者
  長崎県医療政策課
- 対象
  県内6拠点病院・県指定2推進病院
  がん相談担当者　37名
- 学習目標
  ① がんサロンの活動状況を知り、がんサロンの企画・運営について学ぶ
  ② 相談事例をもとに相談支援のプロセスを学ぶ



平成24年度がん相談員向け研修会（1）

- 日時：平成24年11月17日（土）13:00－16:00
- 場所：長崎大学病院
- 参加者数：22名
- 内容
  ① 街中サロン「がんサロンちっご」2周年の経験
  筑後ブロックがん相談支援センター連絡協議会代表
  峯　孝志　先生（久留米大学病院　准教授）
  ② 長崎市立図書館と長崎市内拠点病院とのコラボ企画報告
  長崎県福祉保健部医療政策課　　大隈　輝美　係長
  ③ グループワーク・全体共有



熊本県

開催や企画の方針、年間計画継続的なプログラムなど

1. 企画の方針としては、毎年継続して実施
   ・指導者研修受講者が中心となり企画、WGのメンバーで運営する
   ・平成25年度から、2回／年を予定
2. 事例検討

＊研修会企画の他、相談の質評価・熊本県のガイドブック(仮称)作成の取り組み＊



開催や企画にあたり留意した点、気をつけたこと、うまくいったのはここがポイント

1. 指導者研修受講中から活動を継続させる
2. 相談員WGメンバーが、研修会企画に主体的に関わることが出来る
3. 相談支援部会や行政担当者への働きかけを行い、県全体の取り組みとして理解を得られるような働きかけを行うこと



開催や企画に当たり難しかったこと、今後改善したいところなど

・前準備など、WGだけでなくコアメンバーが頻回に集合する事が難しい
・研修課題、目標設定と研修内容の企画をどこまで綿密に詰める事ができるかということ
・講師、チーフファシリテーター、ファシリテーターの事前打ち合わせが十分でないため当日変更などがあった
・プログラムの作成やグループ編成など、電話やメールでは中々伝わらない情報もある
・がん専門相談員であっても実質は幾重にも兼任しており時間に制約がある為打ち合わせの時間調整が難しい

開催企画に当たり役に立ったサポートやアドバイス



・県外からのファシリテーターの協力を得られたことは、初回開催時、心強く感じた(「北部九州、のぼせもんチーム」の協力)
これは、ファシリテーター経験の有無でなく、仲間としての信頼関係だと考察する
・他県の取り組みなど情報交換ができたことも刺激になりよかった
・講師から、研修全体を通して適切な助言を都度いただいたことは安心感につながった
・院外の相談員、県外の相談員と顔の見えるつながりができた事は、日頃の業務を行う上でもメリットになる
・県担当者のご理解とご支援があり、開催できたと感謝

学習機会の開催前と開催後で実感した変化

・研修会が有意義であったという意見が多数であったこと
・研修会を重ねることで相談員の抱える問題の明確化、相談支援センターの抱える問題を共有するきっかけになっていると思う
・相談員間のネットワーク、連携、色んな意味で身近に感じる
・人を知ることでの安心感、信頼関係、近親感
・転退院や受診における調整がしやすくなった

都道府県内の協力体制の状況、指導者研修参加前の都道府県内の相談員の学習機会等の開催状況など

・指導者研修受講前は、有志のみの情報交換で、研修会や学習の機会はなかった

・第1回指導者研修受講後、熊本県・相談支援部会の協力を仰ぎながら相談員のWGを立ち上げ研修会の企画や抱える問題・課題を検討して行く場として、現在協力体制を構築中

これから企画・開催を検討する指導者研修受講の皆さんへのメッセージ

・仲間を作ってほしい

・幾重にも兼任などの状況は、現場から声を上げないと変わらないし。相談員がきついだけでなく患者さんにとって不利益となる



・思い切って小さなことからでもやってみる



・行政とのコミュニケーション

開催や企画にあたり必要なサポートやアドバイス



・相談支援センター、相談員の存在をアピールする
・院内外、地域あらゆるところでの存在意味を、まず自覚し自分たちで広報を工夫する
・指導者研修終了者は、自己啓発はもとより後輩・仲間の育成という役割を果たそうではありませんか
・終了者の研修を地域でやれたらいいなぁ
・院内・県内の相談員に対して、県外の様々な良い取り組みを沢山伝えることが、自分たちの活動の協力者となるでしょう

平成25年度
相談支援センター相談員指導者
フォローアップ研修～実践報告～

事前課題

沖縄県

沖縄県

●沖縄県内でがん相談に携わっている相談員の現状

- がん診療を行っている専門医療機関は、3拠点病院と3支援病院の計6施設の他に、病院11施設、診療所5施設（乳がん）
- 基礎研修（1）～（3）のいずれかを履修した相談員の所属機関は、拠点病院（15名）とそれ以外（14名）で半々である。
  （1）または（2）修了者：18人、（3）修了者：11人
  （平成24年11月現在）

～平成24年度アンケート※結果から～

- がん相談に携わる職種は社会福祉士が多い。
- 拠点病院以外に所属する相談員は、がん相談に携わっているという意識は低いようである。
- 相談員の知識や技術にも差がある。

※平成24年11月に、県内75医療機関に対し、がん相談の活動状況、基礎研修終了状況、がん相談に携わる相談員としての学習課題についてアンケート調査を行なった。

●沖縄県内のがん相談員間で共有されている目指すべき相談員の姿

- がん患者やその家族がどの療養場所にいても質のよい相談支援を提供できる。
- がんに関する医学的基礎知識と最新治療に関する知識を習得している。
- がん相談支援業務に必要な視点と技法を習得している。

●投入できる資源が限られている中で学習の機会を重点的に儲けるべきと考えられる対象層

○がん診療を行っている専門医療機関（病院17施設、診療所5施設）に所属する相談員

1．基礎研修（1）～（3）のいずれかを履修した相談員：　29人
（1）または（2）修了者：18人、　（3）修了者：11人
（平成24年11月現在）

2．基礎研修を履修していない相談員：　39人
※県MSW協会会員のうち、専門医療機関の相談員数（54名）から上記修了者（15名）を引いた数

●目指す姿に到達するために必要と考えられる価値・知識・技術

- その人らしい生活や治療選択ができるような支援。
- 科学的根拠と実践に基づく信頼できる情報提供。
- がんを抱えて暮らす人の理解。
- がんに関する医学的基礎知識と最新治療に関する知識。
- 相談支援のプロセスの全体像の理解と、コミュニケーションスキル。

●必要な価値・知識・技術を学ぶのに最適と考えられる方法

- 基礎的知識や情報
  ＞＞＞講義やDVD視聴等

- コミュニケーションスキル
- 対象者理解
- 他の専門職や他機関等との連携
  ＞＞＞ロールプレイ
  グループワーク
  事例検討

●取り組みを検討・実践していく際に直面した課題とそれを乗り越えるための工夫

- がん診療を行っている専門医療機関の相談員は、県外での研修を受講しているが、他の医療機関の相談員は受講していない者が多い。
- 拠点病院以外に所属する相談員は、がん相談に携わっているという意識は低いようである。

＞＞＞沖縄県医療ソーシャルワーカー協会にほぼ相談員は入会しているので、定例研修会時に併せて研修会を開催することで、参加し易いようにする。

＞＞＞事例については、地域医療連携の視点や、施設の違いによっても、がん患者への相談・支援が必要なことが理解できるような内容の事例で検討する。

●沖縄県で検討・実践してきた取り組みの概要

平成20年度から、「がん相談支援員実務者研修会」として開催。

〈研修概要〉がん患者やその家族がどの療養場所にいてもよりよい相談支援が受けられるよう、がん相談の質の均てん化をめざし、今後段階的な相談員研修を実施する。

○平成20年度～平成24年度	
主催	沖縄県がん診療連携協議会相談支援部会 沖縄県医療ソーシャルワーカー協会
目的	がん相談・緩和ケア等に携わるソーシャルワーカー等が、相談支援業務を行っていく上で必要な基本的な知識と技術の概要について習得する。
対象	地域がん診療連携拠点病院相談支援センター職員、医療機関等でがん相談支援業務に携わる医療ソーシャルワーカー等
方法	講義、DVD視聴、演習等
日時	随時
場所	沖縄県医療ソーシャルワーカー協会会員の所属する医療機関等

■平成20年度

日時	場所	内容	講師	参加者
1月14日	ちゅうざん病院	・県内拠点4拠点病院がん相談支援センターの概況報告 ・緩和ケア病棟における相談支援 ・医療ソーシャルワーク研修会受講報告 ・「情報資源の収集スキルと提供」 ・がん相談記入シート(試行版)について	・各拠点病院MSW ・緩和ケア病棟MSW ・中頭病院MSW ・琉大病院MSW ・北部地区医師会病院MSW	34人

■平成21年度

H21	場所	内容	講師/担当者	参加者
4月8日	ちゅうざん病院	がん対策基本法・がん対策推進基本計画の概要、がん診療連携拠点病院について	樋口 美智子（那覇市立病院）	24人
5月13日	ちばなクリニック	緩和ケア概論（DVD視聴）	石郷岡 美穂（琉球大学医学部附属病院）	13人
6月10日	おもととよみの杜	5大がん地域連携パスについて	仲村 美和子（北部地区医師会病院）	14人
7月8日	おもととよみの杜	診療ガイドライン・臨床試験	金城 尚美（県立中部病院）	17人
8月12日	沖縄大学	精神腫瘍学の概要とサイオンコロジーソーシャルワーク	樋口 美智子（那覇市立病院）	17人
9月9日	おもととよみの杜	臨床腫瘍学	石郷岡 美穂（琉球大学医学部附属病院）	11人
10月14日	那覇市立病院	乳がん	仲村 美和子（北部地区医師会病院）	8人
11月11日	おもととよみの杜	大腸がん	石郷岡 美穂（琉球大学医学部附属病院）	6人
2月10日	那覇市立病院	5大がん地域連携パスについて	樋口 美智子（那覇市立病院）	42人

■平成22年度

H22日時	場所	内容	講師	参加者
4月14日	おもととよみの杜	がん医療に関する診療報酬改定について	樋口 美智子（那覇市立病院）	29人
5月19日	おもととよみの杜	市民向け普及宣伝用DVD視聴「まさか私が乳がんに？！～早期発見があなたを救う」	樋口 美智子（那覇市立病院）	10人
7月14日	おもととよみの杜	肺がん	金城 尚美（県立中部病院）	21人
10月14日	琉球大学医学部附属病院	家族ケア「看取りの時期にできること」	棚原 陽子（緩和ケア認定看護師）	28人

■平成23年度

月日	場所	内容	講師	参加者
8月11日	琉球大学医学部附属病院	患者必携研修会	増田昌人（琉球大学医学部附属病院がんセンター長）	31人
8月27日	那覇市立病院	アスベスト研修会「石綿（アスベスト）による健康被害の救済に関する法律について」「アスベストによる肺がん及び中皮腫について」	上原 昭彦（沖縄労働局 労働基準部 労災補償課 労災監察官） 宮城武 幸男（那覇市立病院 内科部長）	31人

■平成24年度

月日	場所	内容	講師	参加者
10月5日	那覇市立病院	こころのリエゾン～チーム医療に貢献する精神医学～	保坂隆（聖路加病院 精神腫瘍科）	50人
11月21日	琉球大学医学部附属病院	がん患者の休業補償	大城恒彦（オーシャン事務所 社会保険労務士・行政書士）	29人
1月28日	琉球大学医学部附属病院	患者必携 おきなわがんサポートハンドブックの活用について	増田昌人（琉球大学医学部附属病院がんセンター長）	20人
3月15日	中部病院	がん告知からの患者理解と支援	吉澤 龍太（那覇市立病院がん専門看護師）	54人

平成25年度の研修企画の流れ

平成25年6月某日　相談支援部会研修企画メンバー（4名）でミーティング

（1）学習課題の確認

○前年度の各研修会後に行ったアンケート調査や相談支援センター相談員研修修了者にアンケート調査（平成24年度）をもとに、学習課題や研修会で取り上げて欲しいテーマに関する項目をレビュー

- 疾病に関する医学的基礎知識と最新治療
- 面接技術、コミュニケーション技法
- 事例検討による振り返り
- その他（情報、ネットワーク、死生観など）に関すること

（2）これまでの研修会の反省

○年複数回行われる各研修会を通して、統一したコンセプトや学習目的を共有できていないのではないか。
○講義による知識習得だけではなく、演習を通して相談支援の振り返りや事例を掘り下げて考える機会も必要だろう。
○「がん相談員実務者研修会」というネーミングが、参加者にとっては近寄りがたい？

（3）研修会の目的や学習目的の再設定

■平成25年度	
主催	沖縄県がん診療連携協議会相談支援部会 共催）沖縄県医療ソーシャルワーカー協会
開催目的	1．がんに関する医学的基礎知識と最新治療に関する知識の習得 2．がん相談支援業務に必要な視点と技法の習得
学習目標	1．相談者がおかれている状況（病態）をイメージすることができる。 2．相談目的や主訴の裏に隠れた潜在的ニーズを意識しながら相談者の訴えを聴くことができる。 3．がん相談のプロセスにおけるポイントを理解し実践に活かすことができる。
対象	・がん相談に携わる相談員　（看護師、医療ソーシャルワーカー等） ・がん医療・患者支援に関心のある医療従事者 ・がん相談経験年数は問わない
方法	講義、演習等
日時	随時
場所	沖縄県医療ソーシャルワーカー協会会員の所属する医療機関等

(4)各研修会の具体的な内容決め
①全体コンセプトの設定　→集学的治療を通したがん患者と家族理解
②各研修会に、できるだけ「知識の習得(講義)」と「援助の視点・技法(演習)」の要素を取り込む。
③研修会タイトルを、キャッチーなネーミングに工夫する。

■平成25年度　予定

	日時・場所	テーマ	知識(講義)	視点・技法(演習等)
1	9月3日(木) 中部病院 18:00～19:30	臨床腫瘍学	(臨床腫瘍医) ・がんの基礎知識と最新治療 「がん治療」の今！～今がん治療はどこまで進んでいるのか、どう捉えて支援すれば良いか学べる～	・告知後の支援、セカンドオピニオンの提示方法など
2	10月下旬 琉大病院	化学療法	(化学療法認定看護師) ・化学療法の基礎知識、副作用、費用、患者の心理や抱える困難	化学療法中の患者支援 ・心理面、社会面のアプローチ
3	12月 那覇市立病院	放射線療法	(放射線科医)	放射線療法中の患者支援
4	2月	患者を抱える家族の支援/小児がん患者への支援	(小児がんに関わるSW、小児がんサバイバー)	闘病中の支援、晩期合併症のこと、教育支援、就労支援

●開催や企画にあたり必要なサポートやアドバイスなど

・県がん診療連携協議会や研修部会が、県内の各職種や病院の研修・講演会情報を集約・広報しており、企画内容の調整ができ、また選択して参加ができる。
・県協議会ホームページや各部会で情報収集や顔の見える連携ができ、専門医や認定・専門看護師等へ講師依頼を行い易い。
・全国の指導者研修修了者へは、県内でファシリテーター養成等の研修開催時に講師として派遣要請を行いたい。

●開催や企画にあたり難しかったこと、今後改善したいところ

・これまで相談支援部会メンバーと県MSW協会研修部が共催してきたが、今後グループワークや事例検討を行うなら、研修(3)修了者にファシリテーターを担ってもらう必要がある。

・研修(3)修了者を対象に、「おさらい研修」、「ファシリテーター養成講座」等の開催が必要。

●都道府県内の協力体制の状況、指導者研修参加前の都道府県内の相談員の学習機会等の開催状況など

・県は研修に関しては、関与なく、拠点病院事業として各病院や相談支援部会から報告をしている状況。
・沖縄県医療ソーシャルワーカー協会や沖縄県介護支援専門員連絡協会等の他職能・関係団体とは、共催・後援関係が構築されている。
・沖縄県医療ソーシャルワーカー協会の定例研修会日に共催したり、各拠点病院持ち回りで企画・開催している。